

平成 29 年度福岡ひまわりの里事業報告

【事業概要】

平成 29 年度は、基本方針である①利用者の年齢や障がいの特性に配慮した支援②専門性の向上と法令遵守に努めた支援③共生社会実現に向けた社会参加の推進、を念頭に、関係機関や団体、他施設や事業所、地域等と連携し、利用者一人ひとりのニーズに合わせた福祉サービスの提供に取り組みました。

利用者支援については、利用者の意見を反映しニーズに沿った支援に努めました。機能回復訓練（リハビリ活動）や通院時の相談、訪問看護等外部の専門的な視点からの助言を得て、各利用者に合った活動や環境設定を行いました。また、加齢化に伴う健康面での医療ケアにつきまして、看護師を中心に医療機関や嘱託医と連携し対応しました。余暇支援は、支援員や外部講師によるクラブ活動の実施やスポーツ教室参加をとおして楽しく過ごせるように努めました。

事業運営では、職員配置を厚くすることで利用者支援の幅を広げようと企図しました。看護師、介助員は確保できたものの、支援員の補充採用に苦慮し十分増員することはできませんでした。

開所 29 年が経過し、老朽化する施設設備と高齢化する利用者等、多数の課題を抱えていますが、法人、保護者と「福岡ひまわりの里のあり方検討会議」にて今後の入所施設としてのあり方についての検討を行っており、当施設の抱える課題解決に向けて、方向性が示せるよう取り組んでいます。

以下、項目ごとにご報告いたします。

1 利用者の状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

| 項 目 | 内 容 | |
|----------|-------------------|--------|
| 定員（実利用者） | 50 名（50 名） | |
| 男 女 別 | 31 名 | 19 名 |
| 男女別平均年齢 | 50.0 歳 | 57.6 歳 |
| 平 均 年 齢 | 53.8 歳（27 歳～80 歳） | |
| 平均支援区分 | 5.2 | |

2 事業名及び所属人数 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

| 事 業 名 | 定 員 | 男 性 | 女 性 | 合 計 | 支 援 員 |
|-------------|------|------|------|------|-------|
| 生活介護・施設入所支援 | 50 名 | 31 名 | 19 名 | 50 名 | 19 名 |

短期入所利用状況

利用者 1 名

利用日数 66 日

利用理由

介助者の入院により在宅での生活が困難になった方が利用されました。

3 サービス支援業務の実施状況

(1) 日常生活支援

食事サービスについては、利用者に対する嗜好調査（リクエストメニュー）や支援員の意見を参考に、毎月 1 回給食委託業者との会議を開催しました。会議での内容を、翌月以降の献立や食事内容に反映できるように努めました。

また、利用者 35 名の食事に関しての支援や配慮（刻み食やリハビリ食器使用等）を必要とする 28 項目について、配慮表を作成しました。給食委託業者厨房スタッフ、看護師、支援員で、日々打ち合わせを行い、利用者が安心して楽しく食事をしていただけるよう支援をしています。散髪については、1～2 ヶ月に 1 回、利用者約 30 名が島外に支援員引率のもと行っています。また、島外での散髪が難しい方は施設内で実施しています。

入浴支援については、日曜を除く、月曜から土曜、祝日に実施いたしました。

(2) 社会生活支援

① 地域移行に向けた取り組み

就労や地域移行への希望者のニーズに対して、利用者との面談を通して課題や今後の展望などを支援員と話し、就労やグループホーム利用への意識付けや情報提供等を行いました。

② 利用者代表会議

利用者代表として 8 名の利用者と月に 1 回、施設の運営等について意見交換を行いました。日々の生活、行事や食事について、また、利用者全体会で出された意見、要望について検討し、その意見が反映されるように努めました。

(3) 日中活動支援

① 生活支援

健康観察、整容、着衣、歯磨き、持ち物の整理や居室の掃除、シーツ交換、洗濯、トイレ使用など、利用者個々に合わせた支援を個別支援計画に沿って行いました。

②農耕作業

職員配置や利用者状況により、作業に取り組める時間が少なくなりました。畑作業では夏野菜を中心にピーマン、ししとう、里芋等の栽培収穫を行い、保護者会時等で販売しました。雨天時等は室内で軽作業（ストロービーズやビーズ通し、ミサंगा作り、アイロンビーズ等）を取り組みました。

③陶芸作業

粘土伸ばしによる小皿の作成や利用者がデザインしたアイロンビーズ等の作成、のこの市での委託販売を行いました。陶芸作業が難しい利用者には、ビーズや貼り絵、ジグソーパズル、メッセージカード、行事時の装飾品作成に取り組みました。職員配置や利用者状況により、作業に取り組める時間が少なくなりました。

④自立作業

毎週火・金曜日に島内にある特別養護老人ホーム清和園、木曜日に能古公民館の清掃を行いました。

⑤健康維持活動

参加する利用者の体力や脚力等に合わせて、歩行距離やコース、グループ分けを設定し実施しました。また、支援員による機能回復訓練や折り紙、行事の装飾品や案内看板づくりを行いました。天候や大気状態（PM2.5、黄砂）の不良、支援員の少ない日に、館内での活動へ変更することも多くなりました。

⑥機能回復訓練（リハビリ活動）・リフレッシュ体操

毎週金曜日、筋力に衰えが見える利用者を対象に、理学療法士の石井里衣氏により機能回復訓練（リハビリ活動）を行い、身体機能の維持に努めました。また、リフレッシュ体操として、ラジオ体操や音楽に合わせての手足運動を日課の中に適宜取り入れています。

⑦訪問指導

毎月1回、なかにわメンタルクリニック精神保健福祉士の吉岡孝弘氏により、利用者の現状把握やカウンセリング、支援員に対しての援助技術指導を行い、支援会議等をとおして確認し、利用者支援の向上に努めました。

（４）余暇支援

① カルチャークラブ

外部講師指導のもと、毎月1回、茶道、音楽、絵画のグループに分かれて実施しました。茶道は1月に公民館を利用して初釜を行いました。

② ハンドベル演奏

外部講師指導のもと、月2回土曜日の午後から1時間程度、練習を行い

ました。発表の機会として、施設行事、ふくふくフェスティバルに参加し演奏発表を行いました。

③ 誕生者外出・グループ外出

誕生月の利用者やニーズの合う小グループの利用者の希望を受けて、引率する支援員とプランを立てて外出を行いました。福岡市やその近郊に出かけ、利用者の楽しみな行事の一つになっています。

④ 招待行事

プロ野球観戦（9月）と、バリアフリー映画鑑賞（9月）に、招待を受け参加しました。

⑤ スポーツ教室

年8回のボウリング教室に利用者6名が参加しました。併せて、6月に開催された福岡都市圏ボウリング大会に出場し教室での練習の成果を発揮し、全国障がい者ボウリング大会に1名出場しました。また、年6回のフライングディスク教室に利用者3名が参加しました。

⑥ 休日余暇

休日に会議室を開放し、利用者の希望をもとにレンタルしたDVDの鑑賞をしたり、支援員と戸外を散歩したり、また施設内で、お菓子の販売やジュース自販機の利用をしたり、楽しく過ごしていただくように努めました。

⑦ ひまわりタイム・くつろぎタイム

ひまわりタイムは毎週火曜日と土曜日の午後に、食堂でおやつとコーヒーやお茶を提供しました。くつろぎタイムは毎月第2、第4土曜日の19時から食堂で希望者にビールもしくはノンアルコールビールとおつまみを提供しました。

（5）行事の取り組み

① 能古校区夏祭り

地域共催での夏祭りは、地域のイベントに定着し、島内外からの来場も多く、開催することができました。飲食バザーやゲームコーナー、法人内の事業所による製品販売、地域のステージイベントや盆踊り、フィナーレの花火大会と大いに盛り上がりました。

② 能古校区体育祭

夏祭り同様に地域との共催のイベントとして開催しました。利用者の高齢化もあり、競技に参加できる利用者が限られるようになってきましたが、出場者に声援を送るなど、利用者、職員、一喜一憂しながら楽しく参加しました。

③ 地域交流会

能古公民館を利用して、利用者のハンドベル演奏等のステージイベン

ト、作品販売、日中活動のパネル展示等をとおして、地域の方々に施設のことをより知ってもらえるように取り組みました。法人内の事業所による製品販売も協力いただきました。

④ 一泊旅行

10月に山口方面に出かけました。買い物や食事、宿泊したホテルでのお風呂や宴会、カラオケを楽しみました。

⑤ 日帰り旅行

宗像方面に出かけました。会場で、昼食や入浴を楽しみました。

⑥ バーベキュー

9月に実施しました。雨天のため作業室外に焼き場を設け、食堂にて配膳、提供を行いました。利用者、職員で労をねぎらいながら楽しくいただきました。

⑦ ハイキング

このしまアイランドパークに出掛けました。みんなでお弁当を食べ、散策やボール遊び、フライングディスクをして楽しみました。

⑧ 忘年会

法人職員や外部講師、苦情解決第三者委員の方をお迎えして、会食や利用者、職員のステージイベント、ハンドベル演奏等を楽しみました。

⑨ バスハイク

3月に佐賀方面に出かけ、ホテルにて食事を楽しみました。また、高速道路パーキングでの買い物も楽しみました。

(6) 健康管理、看護師による支援

① 健康管理

利用者の健康状態を把握し、必要に応じて各病院への通院、連携に努めました。今年度、入院加療した利用者は5名で、うち2名が手術を受けましたが、現在は元気で施設生活を送られています。

利用者の加齢によるものか、消化器系疾患、膀胱障害、視力低下、高血圧などが増えている傾向にあります。今後も引き続き、医療機関、看護師、支援員が日々の連携を密にして、緊急時の対応なども含め利用者が健康で過ごせるよう支援に努めます。

検診につきましては、健康診断年2回、精神科検診年3回、耳鼻科、歯科検診を年1回実施しました。日々の通院に関しては、利用者の加齢に伴い通院の頻度が増えています。そのため、日々の生活の中で未然に疾病を予防できるよう支援を行っています。

② 感染症対策

インフルエンザやノロウイルスなど、感染性の疾病はありませんでし

た。今後も主に、冬季のインフルエンザ、ノロウイルス対策として、施設内の手すり、ドアノブ等の消毒、殺菌料製剤による手指消毒、乳酸菌飲料飲用による免疫力向上、居室の加湿器使用等を実施するとともに、関係機関とも連携をとって対策を進めています。

4 その他の取り組み

(1) 職員研修

法人主催の専門研修や一般研修、県社協や市社協の研修、強度行動障害支援者研修等に職員を派遣するとともに、嘱託医である中庭洋一医師の精神科に関わる研修、施設内での定期的な事例検討や虐待防止研修、権利擁護研修を行いました。併せて、なかにわメンタルクリニック精神保健福祉士の吉岡孝弘氏による訪問看護をとおり、支援技術や専門知識の習得に努めました。また、理学療法士である石井里衣氏の機能回復訓練（リハビリ活動）をとおり、支援員も日常生活でリハビリの視点を持って支援を行えるように取り組んでいます。また、法人内共同事業としての実践発表を行いました。

(2) 本人の声を聴く会

7月に福岡市立心身障がい福祉センターで開催された本人の声を聴く会に発表者と準備委員として各1名利用者が参加しました。

(3) 福岡市障がい児・者美術展

絵画クラブの利用者9名が絵画部門に出品しました。1名の利用者が入選し、福岡アジア美術館への展示が製作の励みになっています。

(4) 避難訓練、防災、非常時対策

年4回の避難訓練を実施しました。夜間帯を想定した訓練も実施しています。避難訓練時、地域の福祉施設、事業所の職員に立会いを依頼し、地域福祉施設、事業所間での災害時協力体制強化を図っています。施設職員1名の能古消防分団入団、また、地域にある福祉施設、事業所で災害時協力体制がとれるよう協定を結ぶ等、施設と地域の連携強化に努めています。福岡ひまわりの里防災計画を策定しており、非常時、災害時における通報・連絡体制等の整備に努めています。また、AED使用や救急救命の講習会も実施しました。

(5) 地域との交流

能古中学校1年生との交流学习、中学校3年生の福祉体験学習を実施し

ました。事前に生徒、教職員へのオリエンテーションを行い、当施設の活動や障がい特性について説明を行いました。生徒からは、利用者と活動できて楽しかったと感想が出ていました。

毎月1回程度、利用者5～6名のメンバーを選出し、地域清掃を実施しています。地域の道路や公園、海岸などを清掃し地域から喜ばれています。

(6) 実習生の受け入れ（介護等体験）

県社協を通じて、介護等体験実習生を2名受け入れました。

(7) 保護者との連携

保護者会を偶数月で年6回開催し、施設の運営状況等について説明し理解、協力を求め意思の疎通を図りました。また、保護者役員との意見交換会に参加し協力体制等の確認をおこないました。

(8) 苦情解決・虐待防止対応

利用者との普段からの関わり、保護者会や日々の保護者との連絡等で気軽に相談できる環境作りに努めました。今年度は苦情の申し出はありませんでした。入所施設というシステム上、職員朝礼や会議等で虐待事例の検討や虐待報道の内容について会合を行い、日頃から利用者の権利擁護に配慮した取り組みを行いました。また、職員の行動宣言、スローガンを策定し、職員朝礼時に唱和することで、職員の意識付けを強化しています。

(9) 施設整備等

夜間帯等の利用者の突発的な行動に対する安全確保のため、赤外線センサー、見守りカメラを設置していますが、犯罪防止や抑制の観点から運用について検討をしています。消防用設備等点検結果に伴い、消火補給水水槽配管の保温、配管補修等不良箇所の改修を行いました。また、上水受水槽の経年劣化に伴い改修しました。

(10) 他機関、団体との連携

主に特定相談支援事業所ひまわりと連携し、サービス等利用計画に伴うモニタリングや担当者会議等、保護者、後見人の協力を得ながらスムーズにできました。

また、福岡市民間障がい施設協議会、福岡県知的障害者福祉協会、能古校区福祉施設会議、能古校区青少年健全育成連絡協議会などの活動を通じて、関係団体や地域との連携に努めています。

(11) 地域における公益的な取り組み

「ふくおかライフレスキュー事業」に参加し、区別地区で行われる連絡会に参加しました。今後、サポーター養成研修の受講等を含め、取り組み方について検討しています。